

大桑まさたか

さかえく せかい か
栄区から横浜を変える！JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅で配っていきます！
栄区から、しがらみのない市政(政治)を実現します！市議員
4期目
自由民主党

公約

現在を含め未来のために持続可能な横浜(社会)をつくる！

会派について

私はこれまでの4期、無所属で活動をしてきましたが、平成30年8月に自民党横浜市議員団に入団しましたので、ここで報告させていただきます。

はじめに、今回、私が自民党横浜市議員団に入団をした理由ですが、これまでの無所属での経験を活かしながら、自民党横浜市議員団の力を借りて、できるだけ早く私の考えることを実現するためであり、私が自民党横浜市議員団に入って栄区や横浜で進めている様々な事業を、基本的には、前に進めることが栄区民、そして横浜市民のためになると考えたからです。

次に、今回、私が自民党横浜市議員団に所属することによって、「私自身が変わってしまうのではないか?!」、「無所属だから応援してたのに!」など、もしかしたら違和感を感じる方がいるかもしれません。しかし、私はこれからも変わらず、駅前などで大桑新聞を配り続けるなどスタンスは変えません。また、これまで無所属を貫いてきたからこそ、私が自民党横浜市議員団に入っても今までのスタンスを崩さず活動ができると思いますし、現に、今もこれまでと変わらない活動をしています。その上で、誤解を恐れず言葉にするとすれば、私が自民党に入ったからには、「良い!」と思うところはそのまま前に進めてければと思っていますが、もし、「おかしい!」と思うところがあれば、私が中から自民党を変えていきたいと考えていますし、それが私の役割だと感じています。

最後になりますが、自民党に所属をするということについて、今すぐには理解して頂けないかもしれませんが、是非、今後の私の姿を見て頂ければ幸いです。

特別号-10

Masataka
Okuwa
monthly newspaper
Special Issue 10

大桑新聞

【発行元】

横浜市議員
自由民主党 大桑 正貴

E-mail: m-okuwam@mvglb.ne.jp

http://m-okuwam.net/

Profile

大桑 正貴

(おおくわまさたか)

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型A型

横浜市立小山台小学校入学
 大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)
 神奈川県立大岡高校卒業
 神奈川大学法学部法律学科卒業
 平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社退職
 平成15年(2003年)4月 横浜市議員 初当選
 平成19年(2007年)4月 横浜市議員 2期目当選
 平成21年(2009年)9月 明治大学 専門職大学院卒業
 平成23年(2011年)4月 横浜市議員 3期目当選
 平成27年(2015年)4月 横浜市議員 4期目当選
 平成30年(2018年)8月 自民党横浜市議員団 入団

カンパのお願い！

法律により、「法人」や「匿名の方からの年間5万円以上」
のカンパは受け取ることが出来ません。

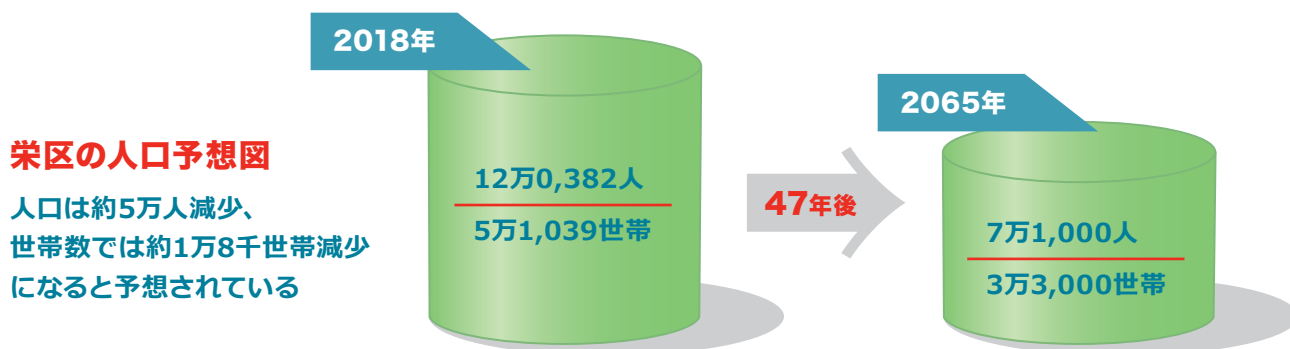
- 振込先：三菱東京UFJ銀行 港南台支店 普通口座 1097570
- 口座名義：大桑正貴としがらみのない政治を実現する会 大桑 正貴

栄区の現状と課題



2018（平成30）年4月1日現在の栄区の人口は、**12万0,382人**。
世帯数は、**5万1,039世帯**となっています。しかし、横浜市の将来人口推計によると、2065（平成77）年には、栄区の人口は**約7万1千人（約5万人減少）**になるとされています。また、世帯数でいえば、**約3万3千世帯（約1万8千世帯減少）**になると予想されます。

次に、横浜市の人口は2019年までは増加するとされていますが、その後は減少に転じると予想されています。この人口減少や世帯数の減少は、栄区や横浜市にとって大きな問題になると、私は考えています。



私が人口減少や世帯数の減少を問題だと考えるのは、人口が減少することにより、税収が減り、道路や水道、下水道を維持管理する財源が少なくなり、結果的に「まち」が維持できなくなる可能性が出てくるからです。たとえば、横浜市が保有する約2,500の公共施設も老朽化が進んでいますので、財源がなければ更新ができなくなる可能性が高まります。また、横浜市内の道路延長は約7,500km。水道は約9,000km。下水道は約11,000kmあります。

今の横浜市の税収だから、今の「まち」を何とか維持管理をすることができます。しかし、維持管理するための財源が減れば、道路や水道、下水道などを維持管理することはできなくなり、我々の生活に支障をきたすこととなります。

そして人口が減少することにより世帯数が減少すれば、空き地や空き家が増えることとなります。空き家が増えれば、治安も悪化するでしょう。そうなる前から、計画的にまちをコンパクトにまとめていかなければ（人が住むところと、それ以外のところの線引きをし直すなど）、栄区中に空き地や空き屋が点在することになり、「まち」の活力が失われてしまいます。家々が栄区内に点在することになれば、たとえば、バス路線も採算面などから撤退する可能性も出てくるでしょう。また、栄区内で営業している商店も今まで以上に営業を続けていくことが難しくなることは予想できます。

最後になりますが、これまでの横浜市（栄区）は、「まち」が広がっていく前提でまちづくりをしていました。しかし、これからの横浜市（栄区）は「まち」をどのように小さくしていくかが課題となります。もし、計画的に「まち」を小さくする（コンパクトにまとめる）ことができなければ、今まで書いてきたような問題がおこってきます。これからのまちづくりのために、みなさんも栄区（横浜市）の課題を認識して頂ければ幸いです。